

セッション1(2)

日本の資産運用業界への期待

高橋 則 広

目 次

- | | |
|-----------|------------|
| 1. はじめに | 4. アラインメント |
| 2. テクノロジー | 5. 最後に |
| 3. ESG | |

1. はじめに

公的年金の運用者としての立場から、資産運用業界に対するGPIFの期待をテクノロジー、ESG、及びアラインメント（連携）の3点についてお話しする。テクノロジーについてはAIを含む技術変化への対応の期待、ESGについてはスチュワードシップに基づくESG投資への期待、アラインメントについてはGPIFが運用を委託するアセットマネジャーとの利害の一致への期待である。

三つの期待の背景にあるのが、GPIFはユニバーサル・オーナーかつ超長期の投資家であるという立ち位置だ。ユニバーサル・オーナーとは広範な資産を持つ資金規模の大変大きい投資家を意味し、GPIFは主要な上場株式については間接的に国内海外ともにそのほとんどを保有している。債

券についても主要なインデックスに入る銘柄はほとんど保有している。今後オルタナティブアセットを拡大していくと、いろいろなプロジェクトにGPIFの資金が入っていくことになる。また、GPIFは超長期の投資家として年金財政の一翼を担っている。このため、世界の資本市場全体がサステナブルでないと、われわれの子孫が年金を受け取る時に十分な利益を提供できないことになる。そういった立場にある投資家として、三つの期待をお話しする。

2. テクノロジー

テクノロジーについてはAIに限らずクラウドコンピューティング、ビッグデータやIoT等、全ての変化が急速に進んでいる。運用業界にも大変



高橋 則広（たかはし のりひろ）

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF） 理事長。1980年農林中央金庫入庫。同長崎支店長、企画管理部副部長、総合企画部副部長、債券投資部長、開発投資部長、常務理事、専務理事等を歴任。2015年、JA三井リース(株)代表取締役兼社長執行役員就任。16年4月より現職。東京大学法学部卒業。